

自分の興味が持てる新聞記事を見つけよう

加古郡稲美町立母里小学校 校長 佐藤 昭則

教諭 中村 尚樹

1. はじめに

本校は加古郡稲美町の東部に位置し、全校児童 268 人、各学年 1～2 クラスという小規模な学校である。児童は比較的あいさつがよくでき、人の話もよく聞き、友達とも仲良く遊べる。

母里小学校の 4 年生以上の児童の多くは、テレビとスマートフォン、タブレット、パソコンからインターネットを経由して情報を得ていることが分かった。また、新聞の購読をしている家庭は多いものの、新聞から情報を得ている児童は極めて少なかった。そこで、新聞を読む機会を増やす必要があると感じた。

2. 実践の内容

(1) 新聞の提供状況 (2014 年度購読計画表)

新聞名	10 月	11 月	12 月	2 月
神戸新聞	○	○	○	○
読売新聞	○	○	○	○
産経新聞	○	○	○	○
日本経済新聞	○	○	○	○
朝日小学生新聞	○	○	○	○
毎日小学生新聞	○	○	○	○

(2) 配置と整理、掲示などの工夫

本年度は、高学年の児童の目の触れる場所に N I E コーナーを設置した。6 社の新聞を並べることで、自分の興味を持った新聞を気軽に手に取れるようにした。

まず、本校では、児童に N I E の取り組みについて具体的に説明し、知らせた。さらに、学級担任には、N I E コーナーがあることや、どういう新聞があるかなどを、教室で話してもらった。そのため、休み時間には、気になる新聞の写真を見たり、子ども新聞の記事を友達と一緒に見に来たりする児童もいた。

購読期間中は、全紙を保存して、バックナンバーを見られるようにした。学習の振り返

りや、出来事の時系列の記事から読み取ることができた。

(3) 自分たちの新聞をプロに見てもらおう (記者派遣の活用)

3、4年生は、総合学習でのまとめを新聞形状にすることにした。3年生には、初めての新聞作りとなり、4年生にとっては、自分なりの新聞が作れるようになってきた時期である。

そこで、NIE実践校として記者派遣事業を受けることができたため、朝日新聞社姫路支局の藤井匠記者をお招きし、新聞作りのコツを教えていただいた。

今回は、1学期に4年生の児童が実際に作った新聞を評価してもらった。新聞の名前、見出しの付け方、レイアウト、イラスト、色の使い方など、本物の新聞記者の方に評価されていくことで子どもたちは、ますます新聞作りに興味を持つようになった。

また、藤井記者自身が取材された新聞記事の話や、新聞の見方や見出しの工夫、写真の撮り方、取材の苦労話などを教えていただき、これまで以上に子どもたちは新聞に関心を持てるようになった。

<児童の作文より>

・ぼくは、新聞記者さんの話を聞いて、とっても大変な仕事だなと思いました。わけは、ぼくたちが寝ている間も休まず働いているからです。他にも、取材のために、危険な場所や外国にも行かないといけないことも分かりました。知らないことがたくさんあって、びっくりしました。また、新聞を読みたいと思いました。

・わたしは、本物の新聞記者さんに初めて会いました。今までは、同じ大きさの字で、新聞を書いたりしていましたが、レイアウトを考えたりするのは、大変だなと思いました。だけど、レイアウトを考えるとすごく見やすい新聞になることが分かりました。

・ぼくは、今まで社会の授業で新聞を作ったことがあるけど、気をつけていたのは、新聞の題名を付けることと、丁寧な字で書くことくらいでした。藤井さんの話を聞いて、たくさん気をつけて記事を書いていることが分かりました。ぼくも、これからは、藤井さんのアドバイスを生かせるように、新聞を作りたいと思いました。



【記者派遣事業（朝日新聞社・藤井匠記者）】

（４）勉強の中で新聞を活用しよう

本年度は、低学年にも協力を依頼し、２年生から６年生の学級で新聞を取り入れた学習を展開した。

まず、２年生では、生活科で「新聞をみよう」を実践した。いろいろな新聞の中で、自分が気になる写真を一つ選び、なぜ、その写真を選んだのか理由を書いて発表した。互いに見せ合い発表することで、新聞にはいろいろな写真が載っていることが分かり、新聞への興味を持つことができた。

３年生では、総合的な学習の時間で「はじめての新聞作り」をした。バス旅行で分かったことのまとめができた。見出しは大きく書くことや、写真や絵を入れようという藤井記者のアドバイスを生かして、意欲的に新聞作りができた。

４年生では、国語の「新聞を作ろう」で、新聞作りのポイントと本物の新聞を照らし合わせ、共通点があることを学習した。また、社会の「兵庫県マップを作ろう」では、新聞の中から、兵庫県に関する記事を探し、自分の紹介したい町や行事などを新聞にまとめて発表した。４年生では、新聞を作ったり、触れてみたりする機会が多く、意欲的に新聞を読む姿が見られた。

５年生では、総合的な学習で「災害に負けない力を身に付けよう」という学習をした。阪神・淡路大震災から２０年を迎えるに当たり、防災教育で、新聞を活用して、情報を収集した。そして、その情報を基に「防災パンフレット」を作った。子ども新聞だけでなく、一般紙からも情報収集をすることで、自分に必要な情報を見つけることができた。

６年生では、社会の「わたしたちの願いを実現する政治」において、新聞を活用した。本年度実施された衆議院総選挙で、地元の兵庫１０区の各立候補者の政策が書かれた新聞記事を読み、自分ならどの人に投票するかを考えた。



【2年生「新聞をみよう」】



【3年生「はじめての新聞作り」】



【4年生「兵庫県マップを作ろう」】



【5年生「防災パンフレットを作ろう」】



【6年生「だれに投票するか考えよう」】



【NIEコーナーに来る児童】

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・昨年度の課題として、高学年中心の取り組みだったので、低学年児童も新聞に触れる取り組みができた。
- ・以前よりも新聞に目を通す子どもたちが増え、新聞に触れることに抵抗がなくなってきたようである。身近に新聞がある環境を作り、必要なときに自分たちで調べたり使ったりできるようにストックしておいたことがよかったと思う。
- ・記者派遣事業で、自分たちの新聞をプロの目で評価していただいたことは、子どもたちの励みになった。新聞記者の苦労話などを、子どもたちは興味深く聞いていた。また、学習新聞作りにも藤井記者のアドバイスが効果的であった。

(2) 課題

- ・低学年フロアにも、NIEコーナーを作った方がよいと感じた。今年度は、高学年フロアに設置していたため、日常生活の中で、低学年の子がNIEコーナーに行きづらかった。
- ・授業の中で、新聞を活用したが、新聞記事から必要な情報を取り出すことは難しいと感じた。そのため、日常的に新聞を読む機会が必要である。
- ・教科の授業における新聞活用についての位置付けを明確にする必要がある。朝の会や終わりの会でのスピーチ活動などにもつなげられれば、より子どもたちの表現力の育成に新聞が役立つと思う。